

「こんにちは！知事です（今治地方局）」

日 時 平成15年10月15日（水）10:00～12:00

場 所 テクスポート今治

参加いただいた方々

	住所	氏 名		住所	氏 名
1	今治市	高雄こずえ	11	菊間町	東本 五月
2	〃	田窪ちゆき	12	〃	村上満三枝
3	〃	武田理恵子	13	吉海町	重松 利一
4	〃	松本 宏平	14	宮窪町	藤木 政弘
5	朝倉村	森川 牧子	15	伯方町	阿部 優子
6	玉川町	桑田 誠	16	〃	村上 眞愛
7	波方町	白石寿美香	17	上浦町	佐藤 哲也
8	〃	村上 泰進	18	大三島町	八崎 秀男
9	大西町	大河内結子	19	関前村	平原 ヒサ
10	〃	近藤多津子			

懇談の概要

排水の再利用

水不足といいながら、水を使うことに無頓着である。公共施設を作るときに浄化された排水の再利用について検討してはどうか。また、家庭でも実用化すれば、水が有効に使える。

(知事)

大きな工場で大量の水を使うところでは工業用水の再利用を行っているが、設備投資に大変な費用がかかるため、一般家庭では経費の負担が大きい。費用対効果の問題がネックになる。素晴らしい提案である。

市町村合併後の診療所の存続

合併すると今ある診療所がなくなるのではないかとの噂があるが、診療所の存続をお願いします。

(知事)

合併に関係なく、地域医療の問題である。へき地の診療所は、合併後も継続されると思っている。

[対応]

診療所の存続については、市町村の合併協議会及び合併後の新市町で決定することであるが、県は、現在、へき地診療所に対し、運営費の補助をしており、合併後も引き続き支援していく。

救急車の管轄外搬送の要望

救急車を利用しようとした際、かかりつけの病院への搬送を依頼したが、管轄外であるため管内の病院での検査後、転院するように言われた。かかりつけの病院の受入態勢は整っており、消防署内での検討の結果、かかりつけの病院に搬送されたが、救急車が来てくれると分かるまでに40分もかかった。何らかの対応をお願いしたい。

(知事)

消防は広域で協定を結んで防災活動を行っているが、提言の趣旨に沿うよう、消防署に申し入れる。

[今治地区事務組合消防本部への照会結果]

本来、救急車要請は迅速な医療対応が要求される状況にあるので、搬送中の病状の急変等を考慮すると、管内の救急当番医又はかかりつけ医に搬送し、処置をしてもらうこととしている。

退職者の社会参加

定年退職した人を社会参加できるような組織ができればいい。例えば、生涯学習指導員とかの名称で、ボランティアで子供の健全育成、芸術、芸能に役立てたらと思う。

(知事)

要介護の老人が増えており、介護保険給付費の支出が増えている状態である。元気な高齢者が痴呆性老人と触れ合うような活動を行えば、税の負担が減ってくる。元気な高齢者が、週に1回でも介護のボランティアをすればといった機運を盛り上げて、そういう社会になってほしいと思う。

放課後児童クラブの設置

母親のパート勤務による育児ストレス、それに伴う子供の教育問題が大きくなっている。昨年、県女性財団の支援で児童館活動を行った。県の資料では、放課後児童クラブを平成17年度までに150箇所設置することになっており期待している。放課後児童クラブは今治市内では学校単位でできているが、伯方町は設置の目途が立っていない。県内の放課後児童クラブ設置の状況はどうか。

(知事)

先頃成立した「次世代育成支援対策推進法」に沿って、各自治体で計画を立て、鋭意取り組んでいくこととしている。最近の調査によると、共働き(約40%)より専業主婦(約70%)の方が育児ストレスを感じている。育児ストレスは、共働き、専業主婦にかかわらず、精神的な負担が大きい。負担解消のために県も力を入れて取り組んでいく。放課後児童クラブは現在県内で131あり、今治管内では今治市で13、朝倉村2という状況である。

ジュニアスポーツによる人間形成

青少年の非行解決には、スポーツによる人間形成が大切で有効だと思うがどうか。

少子化の問題も考えていかなければならない。

(知事)

昔の子供たちは、地域社会で群れをなして遊ぶことが集団社会であり、そこで、いろいろなルールを学び、人格形成された。ジュニアスポーツもまさにその問題を解決する大きな有力な手段である。

次世代育成支援対策のとおり、地域で子供の面倒を見るという形にならない限り少子化の問題は解決しないと思う。

子供の育て方

子供の育て方を親が知らない。子供を育てていく理念がない。勉強ができたらいいい、スポーツができたらいいい、いい大学に入れたらいいいぐらいしか考えていない。子供を叱ることができない親が増えている。子供の育て方について、親の理念などを共に考えていける場所があるといいのだが。子供の欲望を抑えることができない親の教育をどのようにしたらいいかが悩みである。

(知事)

ジャン・ジャック・ルソーの「エミール」のなかで、「子供をだめにするためには、子供の欲しがるものを何でも与えればよい」という言葉がある。親にとってはなかなか難しいことだと思うが、社会風潮を変えていく必要がある。

子育て環境の整備

少子化の問題は、安心して子供が産める環境が整っていないことによる。産休制度が整っていない会社もあるし、児童館、児童クラブがないので、子供が小学校に入学すれば、仕事を辞めなければならなくなる。

(知事)

地域社会で子供は宝として、みんなが温かい手を差し伸べるような「愛と心のネットワーク」、老人介護と子育てに関するボランティアシステムネットワークをつくるのが第2期加戸県政の最大課題と思っている。

子育てへの父親の参加

ゆとり教育のなかで、休日の活用方法が親子ともよく分かっていない状態である。町主催の行事があっても父親の参加は少ない。父親も積極的に参加し、子供たちと接してもらったらいいと思う。

(知事)

教育や子育てに無関心な男性の意識を変えないと、次世代育成支援対策とかの子育て支援が絵に描いた餅になる。家庭で父親も母親も相互協力の下に子育ての重要性を認識してもらえたらいいと思う。

しまなみ海道のPR

町内の主な就職先が役場か農協であり、しまなみ海道の開通による観光産業発展の重要性を感じている。「スリーデーウォーク」に多数の参加者があったが、歩いて渡れることを知らない人も多かった。歩いて橋を渡れることを全国的にPRしていくことが大事である。

第3セクターで運営している道の駅は合併によってどうなるのか。また、自動車道全通の状況を聞きたい。

(知事)

しまなみ海道が誇れるのは、自転車道が整備されていることである。就業人口も第一次産業から第二次産業、第三次産業へと移動していく中で、産業がなければ人口は減ってくる。交流人口の増大が地域の活性化に繋がる。しまなみ海道の良さを全国の人に知ってもらい、多くの人に訪れてもらうためにあらゆる方策を講じている。大島、生口島の島内道路整備による条件整備ができれば、地域の振興に繋がる。しまなみ海道振興にリンクした形で今後も施策を進めていきたい。

商店街の活性化

今治市の商店街は人通りも少なく、空き店舗が多い。商店街の活性化のためにはどうすべきか。

(知事)

アーケード整備、空き店舗活用、駐車場整備など案が出されているが、抜本的な解決策でない。周辺に人が集う施設とか催しものとかが必要である。県は具体案があれば支援しているが、振興に繋がっていないのが残念である。

若者の雇用の場の創出

愛媛にもっと若い人が就職できる場所がほしいという意見が多い。経営が苦しく、若者の農業離れが著しいので、子供に農業を継ぐように言い難いが、なるべく近くにいて農業に関わってほしいという親の希望もある。松山に企業が誘致され、県の努力をうれしく思う。雇用問題を考えてほしい。

(知事)

雇用の創出・拡大が県の最重点事項である。歴史の流れが第一次産業から第二次産業、さらに第三次産業へと動いており、就業の増大はITをはじめとしたサービス産業にウエートを置いたほうが雇用対策になる。愛媛県に就業の場が増えることに県庁を挙げて最大限の努力をしている。

愛媛産みかんの消費拡大

地元愛媛でのみかんの消費拡大のため、「フルーツで朝食を」の運動を進めている。果物は朝食食べるのが一番体に良いので、消費拡大に向けて職員にも勧めていただきたい。

(知事)

47都道府県の県庁所在地での果物の消費量は、青森市はりんごが、甲府市はぶどうが、千葉市は梨が、それぞれ日本一である。しかし、松山市はみかんの消費量が全国で40番目であり、地元での消費拡大が望まれる。

朝と夜は、愛媛のフルーツをたくさん食べている。おかげで元気にがんばっている。

鳥獣被害対策の継続

猪、猿の被害が多いので、鳥獣害防止対策事業を継続してほしい。

(知事)

対症療法的なものしかない状態で抜本的な解決には至っていない。有効な提案があれば県として取り組みたい。

しまなみ海道の通行料金の値下げ

しまなみ海道は島の住民にとっては生活道であり、今治市内に通う高校生などの家庭の負担は身にしみるものがあり、フェリー料金と比較すると割高感がある。生活道としての位置付けからすると、無料は無理でも、利用しやすい料金への対応はできないか。

(知事)

3橋で約3兆8000億円の膨大な借金をかかえており、1兆3400億円は道路特定財源投入が閣議決定され、残りの約2兆4600億円は通行料金で返済するスキームになっている。通行料金を値下げするためには、さらに国や県の税金をつぎ込まなければならない。値下げのために税金を使うのは財源難の折り理解が得られにくいと思われる。基本料金から2割引のところをさらに1年間1割引にしたことにより、国、県の負担が増えている。国に対して県も負担するから税金をつぎ込んでくれといったのは愛媛県だけである。

県立今治病院の駐車場整備

県立今治病院の駐車場は大渋滞になるので、改善してほしい。

(知事)

近くの土地を用地買収し、拡張工事を行っている。

文化財、芸能の保護

合併によって地域に眠っている文化財、芸能が埋没しないように、継承し掘り起こしていけるようなボランティアによる委員会制度が県内各地にあればいい。

(知事)

地域にとって文化財は記憶、思い出である。古いものが見捨てられることは、過去の記憶が消えるということで、現世に生きるしか意味がなくなる。地域の文化を大切に保存し発掘していく必要がある。現在の財政状況のもとでは、地域

のボランティアによる歴史発掘、記録保存により子孫に伝えることは貴重なことである。

文化事業の継承

趣味で能をしており、伝統芸能を通じて人との交流ふれあいが大切であると感じている。愛媛の文化レベルは低いと聞いたが、そのことについて知事はどう思うか。文化施設、文化事業をどのように継承していくのか。

(知事)

能、文楽、歌舞伎は日本が世界に誇れる三大芸術であると思っている。愛媛では俳句が盛んで、演劇もがんばっているが、音楽関係はレベルがそんなに高くないのではないかという印象がある。県民自身が文化を嗜み、芸術文化に喜びを持って、心に潤いを持てる精神活動に目を向けるような県になってほしいと願っている。

青少年安全確保のために学社融合の促進

非行、引きこもり、不登校、誘拐など子供たちの安全が脅かされている状態であるので、学社融合を進めていきたい。子供、親、先生、地域の人が学校を中心にしたコミュニティを作り、一緒に子供たちを取り巻いて見守っていきたいと考えている。子供たちの環境づくり、世代間の交流、悩みの話し合いができる場所をつくってほしい。県の考えを聞かせてほしい。

(教育事務所長)

学社融合は、今治市PTA連合会、県PTA連合会でも進めている。いろいろな問題が発生しており、学校だけ、家庭だけの問題ではない。地域を取り巻いた学社融合の輪を広げてほしい。

児童相談スペースの設置

女子高生の性教育の悩みなどについて親子でもなかなか会話ができない。気軽に相談できるスペースを設けて、知識を教える体制づくりをお願いしたい。

(知事)

一遍に実現するのはなかなか難しいが、可能な限りそういう協力体制が取れるところが発掘できればと思っている。

今治市営体育館の整備

今治市営体育館を子供が文化活動を行える施設に整備してほしい。また、駐車場も整備してほしい。

(知事)

今治市のことなので今治市に伝える。

世界の芸術、文化の紹介

世界からどのような芸術、文化を愛媛県に取り入れたらよいか教えてほしい。

(知事)

芸術、文化は強制するものではない。何かに接する機会があれば、喜びを感じてファンが増えてくる。経費をいかに安くして、良いものが来てもらえるかが問題である。市町村でも助成を行っている。